



私のひとりごと

「今年の運勢は…」

人間は生身の体である。そのことは理解はしているが、健康であれば当たり前として無意識に過ごしている。ところが去年の終盤に、当たり前ではいられない事が次々と起こってきた。私自身の体調不良をはじめ、知人の病気の悪化、子供や孫の体調の異変など、続く時には続くものである。おかげさまで今はどれも良い方向に向かっているが、その中で、子供の体調異変の時のことについて少し書いてみたいと思う。

熱っぽい日が続いていたらしいが、寒い日の外での作業で一気に悪化。市内の病院で治療を受け、薬を服用するが、一向に良くなり歩くことすら困難となった。色々調べて頂いたが、薬の副作用とは解るものの、原因が特定できず、これ以上ここでは手の打ちようがないとまで言われた。なので、大きな病院へ行くことを勧められ、福井の済生会病院へ行くことになった。私自身、済生会には何度かお見舞いで行ったことはあるが、付き添いとはいえ、受診するのは初めてである。神経内科の受診であったが、科の入り口までの廊下に有名な西洋画家の絵が展示されている。風景画であるが、絵に興味のない私でも、その場所に居るかのごとく引き込まれていく。ただ、どうして病院に多くの絵が展示されているのか不思議であった。



【2017年が皆様にとって良い年でありますよう】

待合室では、病んでいる人には申し訳ないが、目に映る人の動きを観察するしかやることがない。ソファーに腰掛ける患者さんに、看護師さんが話しかけているのが目に留まる。膝を床に付け、患者さんの目線より少し低いところから、優しく語りかけるように問診をしている。症状を正確に聞き取ろうとする思いと、言葉では解らない症状を感じ取ろうとする態度は、見ているだけで惚れ惚れするプロの問診である。また、受付事務の女性が、患者さんの名前を呼ぶのであるが、比較的小さな声で2回ほどお呼びする。本人が現れなければ、大きめの声で呼ぶのかと思いきや、少し時間を置き、再度小さめの声でお呼びする。他の患者さんに不快感を与えない配慮であろう。さらに、主治医の先生は、首から掛けている名札を私の方に向け、名前と専門分野の紹介をされた後に、治療方針の説明に入られた。よくよく考えれば、患者側からすれば、その先生を親しく知っている訳でもなく、お任せするしか仕方がない立場で、心底信用している訳ではない。最初にその不安を取り除く努力をされている姿は、感動的でもある。結果、子供は検査入院となり、入院手続きをするロビーに書かれていた事柄に、さらに衝撃を受けることになる。その事柄とは…

そもそも済生会は、明治天皇が生活困難者に対し、医療を中心とした支援を行う団体の創設を提唱され、時の総理大臣、桂太郎氏により創設されたそうである。また、医療機関として初めて「日本経営品質賞」を受賞。その理念も「患者さんの立場で考える」とあり、患者さん満足度、またそこで働く職員の満足度、さらに地域貢献と全国トップレベルだそうである。その事実を知り、私はしばらくその場所から動けなかった。私が追い求めることが、ここにあった…。この病院から感じる雰囲気謎が解けた思いがした。

新たな年のスタートとなったが、一見、辛いと思いがちな病気との出会いが、今年の運勢を占う上でとてもラッキーな事柄に思え、(子供にはいささか申し訳ないが) 不思議と心が「ワクワク」しているのである。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう
ございました!!

